



今 本 博 健 教 授

今本博健教授略歴

(学歴・職歴)

- 昭和12年12月9日 高知県に生まれる
- 31年 3月 大阪府立住吉高等学校卒業
- 32年 4月 京都大学工学部土木工学科入学
- 36年 3月 京都大学工学部土木工学科卒業
- 36年 4月 京都大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻入学
- 38年 3月 京都大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻修了
京都大学工学修士
- 38年 4月 京都大学大学院工学研究科博士課程土木工学専攻進学
- 40年 3月 京都大学大学院工学研究科博士課程中退
- 40年 4月 京都大学工学部講師
- 41年 4月 京都大学工学部助教授
- 44年 3月 京都大学防災研究所助教授
- 46年 9月 京都大学工学博士
- 50年 4月 京都大学防災研究所教授
- 50年 5月 防災研究所附属宇治川水理実験所長(平成8年5月まで)
- 50年11月 タイ国アジア工科大学客員教授(昭和51年1月まで)
- 平成 8年 5月 防災研究所附属災害観測実験センター教授に配置換
- 8年 5月 災害観測実験センター長に併任(平成9年4月まで)
- 9年 5月 防災研究所長に併任(平成11年4月まで)
- 9年 5月 京都大学評議員に併任(平成11年4月まで)
- 11年 5月 災害観測実験センター長に併任(平成13年3月まで)

(学会等)

- 昭和35年 1月 土木学会会員
- 40年 4月 土木学会水理委員会委員
- 44年 4月 IAHR(国際水理学会)会員
- 56年 4月 自然災害学会理事
- 56年 4月 可視化情報学会評議員
- 平成 2年11月 第7回国際水理学会アジア太平洋会議論文賞受賞

今 本 博 健 研 究 業 績

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1962	開水路流れにおける拡散過程について	第7回水理講演会講演集、pp55-60	岩佐義朗、村本嘉雄
1963	乱れ計測に関する一手法について	第8回水理講演会講演集、pp25~30	石原藤次郎、岩佐義朗、村本嘉雄
1965	Turbulent Diffusive Process in Open Channel Flow by Means of Trancer	Injection, Proc. 11th Congress IAHR, 2.24	Yoshiaki Iwasa
1966	Some Features of Turbulent Diffusion Processes in Open Channel Flows	Memoirs of Faculty of Engineering, Kyoto University	Yoshiaki Iwasa
	開水路せん断乱流場における拡散現象について	第10回水理講演会講演集、pp81-86	岩佐義朗
1967	開水路流れの自由表面上における固体粒子の拡散特性について	第11回水理講演会講演集、pp71-76	岩佐義朗、井上和也、白砂孝夫
	開水路流れにおける乱流拡散過程	土木学会関西支部昭和42年講習会資料、pp.79-92	
	Turbulence Measurement by Means of Small Current Meter in Free Surface Flow	Proc. 12th Congress IAHR, Vol.2 B.32, pp273-	Yoshiaki Iwasa
	Effect of Particle Sizes to Turbulent Diffusive Processes in Free Surface Flow	Proc. 12th Congress IAHR, Vol.4 D.11, pp97-	Yoshiaki Iwasa
1968	Estimation of Dispersion Coefficients on Free Surface by Means of Particle Simulation Method	Memoirs of the Faculty of Engineering, Kyoto Univ. Vol.30 Part 1,pp	Yoshiaki Iwasa
1970	開水路流れにおける乱れの空間相関特性について	京都大学防災研究所年報、第13号B、pp333-345	上野鉄男
	開水路流れに設置された円柱振動特性について	京都大学防災研究所年報、第13号B、pp347-359	武山正人
1971	開水路流れにおける乱れ特性量の普遍関数表示について	京都大学防災研究所年報、第14号B、pp189-203	
	開水路流れにおける乱れの空間構造について	京都大学防災研究所年報、第14号B、pp205-217	上野鉄男
	Dispersive Characteristics of Free Surface Flow in Terms of Lagrangian Descriptions	Proc. 14th Congress, IAHR, Vol.1, A-14, pp109-	Yoshiaki Iwasa
1972	開水路流れにおける乱れの基本的特性について	土木学会論文報告集、第197号、pp83-91	
	川と人とのふれあいの歴史をひもとく・・淀川にみる河川技術の推移・・	土木学会誌、57号、pp83-90	久保弘一
	開水路流れにおける乱れの空間構造について(2)一平均流による乱れの移流過程一	京都大学防災研究所年報、第15号B、pp463-473	上野鉄男
1972	開水路流れにおける速度の不規則性について	土木学会関西支部昭和47年度講習会資料、pp67-85	

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1973	開水路流れにおける乱れの空間構造について (3)	京都大学防災研究所年報、 第16号B、pp505-519	上野鉄男、浅野富夫
	波状路床上の流れにおける乱れの特性について	京都大学防災研究所年報、 第16号B、pp521-531	上野鉄男
	Turbulence Characteristics in Free Surface Shear Flows	Bulletin of the Disaster Prevention Research Institute, Kyoto Univ,	
1974	複断面流れの水利特性に関する基礎的研究	京都大学防災研究所年報、 第17号B、pp665-679	久下俊夫
	水制の水利機能に関する研究 (1)一不透過水制の抵抗特性について一	京都大学防災研究所年報、 第17号B、pp681-699	池野秀嗣
1975	開水路流れにおける乱れの普遍的特性について	第19回土木学会水理講演会 論文集、pp161-166	浅野富夫
	枠型透過水制の水利機能について	京都大学防災研究所年報、 第18号B、pp637-655	岩佐義明、名合宏之
	開水路断面変化部における流れの水利特性について (1)一段上り部および段落ち部に関する実験的	京都大学防災研究所年報、 第18号B、pp657-678	藤井良啓
	Universal Representation of Turbulence Characteristics in Free Surface Shear Flow	Proc. 16th Congress, IAHR, Vol. 2. 5, pp63-68	
1976	開水路流れにおける乱れの空間構造について (4)	京都大学防災研究所年報、 第19号B、pp237-249	浅野富夫、佐々木健
	開水路流れにおける乱れのスペクトル特性について	京都大学防災研究所年報、 第19号B、pp251-266	浅野富夫、石垣泰輔、 杉浦秀之
	開水路流れの乱れ特性	水工学に関する夏期研修会 講義集76-A-2, ppA -2-1~	
	水害の避難対策に関する研究一高知県日高村の水害 (昭50. 8) を中心として一	第13回自然災害科学総合シ ンポジウム講演論文集、 pp21~24	村本嘉雄、道上正規、 藤田裕一郎
1977	開水路流れの乱流構造	京都大学防災研究所年報、 第20号A、pp29-48	
	開水路流れにおける乱れの特性量の普遍関数表示について (2)	京都大学防災研究所年報、 第20号B-2、pp271-294	浅野富夫、石垣泰輔、 今西邦夫
	開水路流れにおける乱れの空間構造について (5)	京都大学防災研究所年報、 第20号B-2、pp295-308	浅野富夫、阪本幸則
	開水路断面変化部における流れの水利特性について (2) ・水路幅急変部に関する実験的検討 ・	京都大学防災研究所年報、 第20号B-2、pp309-330	藤井良啓、藤井義文
1977	Experimental investigation of free surface shear flow with suspended sand-grains	Proc. 17th Congress of IAHR, Vol. 1, A14, pp105-	Tomio ASANO, Taisuke ISIGAKI
1978	開水路断面変化部における流れの水利特性について (3) ・段上り部および段落ち部に関する実験的検討 ・	京都大学防災研究所年報 第21号B-2、pp331-353	藤井義文、西尾 誠、 田中一彦

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1978	円柱周辺における開水路流れの水利特性について 琵琶湖南湖における拡散特性	京都大学防災研究所年報 第21号B-2, pp355-366 第25回海岸工学講演会論文集、pp566-570	藤田徹、日紫喜剛啓 道上正規
1979	固液混相開水路流れの水利特性に関する研究 (1) 開水路流れの大規模乱流構造と構造物周辺の局所流との関連について	京都大学防災研究所年報、 第22号B-2, pp453-468 京都大学防災研究所年報、 第22号B-2, pp469-490	大年邦雄 宇民 正、上野鉄男、 日紫喜剛啓、仲井公哉
1980	固液混相開水路流れの水利特性に関する研究 (2) Turbulence Characteristics of Free Surface Shear Flow with Suspended Sand Particles On the Mechanism of Secondary Flow in Prismatic Open Channel Flow	京都大学防災研究所年報、 第23号B-2, pp373-392 Proc. 3rd International Symposium on Stochastic Hydraulics, pp655 ~665 International Symposium on Flow Visualization, Vol. 2, pp476-481	大年邦雄 Kunio. Ohtoshi Utami, T., T. Ueno, K. Ohtoshi
1981	固液混相開水路流れの水利特性に関する研究 (3) 水害情報の発表基準と伝達システムに関する現状分析 水害時における避難情報の有効性について	京都大学防災研究所年報、 第24号B-2, pp367-376 京都大学防災研究所年報、 第24号B-2, pp377-386 第18回自然災害科学総合シ ンポジウム講演要旨集、	大年邦雄 石垣泰輔、大年邦雄
1982	固液混相開水路流れの水利特性に関する研究 (4) 複断面開水路流れの水利特性について (1) 複断面彎曲開水路流れの水利特性について 複断面開水路流れの流況特性について 水害時の情報伝達と避難行動について ・昭57・7 長崎水害の実態調査による検討・	京都大学防災研究所年報、 第25号B-2, pp417-427 京都大学防災研究所年報、 第25号B-2, pp509 ~527 京都大学防災研究所年報、 第25号B-2, pp529 ~543 第10回可視化シンポジウ ム、Vol.No. 6, pp429~432 第19回自然災害科学総合シ ンポジウム講演要旨集、 pp. 283-288	大年邦雄 石垣泰輔、 稲田修一 石垣泰輔、 藤沢 寛 石垣泰輔
1983	複断面開水路流れの水利特性に関する実験的研究	第27回水理講演会論文集、 pp61-66	石垣泰輔
1983	複断面彎曲開水路流れの水利特性に関する実験的研究 水害時の情報伝達と避難行動について -昭57.7 長崎水害の実態調査による検討-	第27回水理講演会論文集、 pp67-72 文部省科学研究費突発災害 研究成果自然災害科学総合 研究班、No. B-57-3、	石垣泰輔
	昭和57年 7月長崎水害における住民の避難行動について	京都大学防災研究所年報、 第26号B-2, pp127-138	大年邦雄

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1983	昭和57年 8月大和川水害における住民の避難行動について	京都大学防災研究所年報、第26号B-2、pp139-149	石垣泰輔、大年邦雄
	開水路流れの壁面せん断分布と縦渦に関する実験的検討 (1)	京都大学防災研究所年報、第26号B-2、pp477-487	石垣泰輔
	開水路流れに設置された橋脚周辺の水理特性について (1)	京都大学防災研究所年報、第26号B-2、pp489-501	大年邦雄
	レーザ・ドップラー流速計の開水路乱れ計測への適用性について	第1回流れの計測大阪シンポジウム講演要旨集、pp.7	石垣泰輔
1984	開水路隅角部付近における縦渦の配列特性について	第28回水理講演会論文集、pp257 ~262	石垣泰輔
	昭和57年 7月長崎水害における避難行動選択への影響要素について	自然災害科学、第3 巻1号、pp22~323	石垣泰輔、大年邦雄
	水害時の避難行動における各種情報の有効性について	文部省科学研究費突発災害研究成果自然災害科学総合研究班、No. B-58-3、	石垣泰輔、大年邦雄
	複断面開水路流れの水理特性について (2)	京都大学防災研究所年報、第27号B-2、pp433 ~444	石垣泰輔、木下聖司
	開水路流れに設置された橋脚周辺の水理特性について (2)	京都大学防災研究所年報、第27号B-2、pp445 ~454	大年邦雄
	水素気泡法を用いた開水路流れの壁面せん断力計測について	第12回流れの可視化シンポジウム、Vol. 4、No. 14、pp. 187~190	石垣泰輔
	非定常開水路流れの乱れ特性について	第 2回流れの計測シンポジウム講演要旨集、pp59~62	石垣泰輔
	水害時の避難行動における各種情報の有効性について	日本学術会議、災害情報と避難に関するシンポジウム、pp6 ~15	
	複断面流れの水理特性について・内部構造に及ぼす断面形状効果・	第21回自然災害科学総合シンポジウム講演概要集、pp. 337~340	石垣泰輔
	2 段円柱橋脚周辺の水理特性について	第21回自然災害科学総合シンポジウム講演概要集、pp. 341~342	大年邦雄
1984	3 大都市住民の水害に対する防災意識について・東京・大阪・名古屋におけるアンケート調査 (昭59.7) ・	第21回自然災害科学総合シンポジウム講演概要集、pp. 523~526	石垣泰輔、大年邦雄
1985	二段円柱橋脚周辺の水理特性に関する研究	第29回水理講演会論文集、pp585 ~590	大年邦雄
	複断面開水路流れにおける中規模渦の形成過程に関する研究	第29回水理講演会論文集、pp833 ~838	石垣泰輔
	開水路流れにおける縦渦の可視化	第13回流れの可視化シンポジウム、Vol. 5、No. 18、pp. 219-222	石垣泰輔

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1985	LDV による開水路流れの速度ベクトル計測について(1)	京都大学防災研究所年報、第28号B-2, pp. 471~486	石垣泰輔
	複断面開水路流れの水利特性について(3)	京都大学防災研究所年報、第28号B-2, pp. 487~498	石垣泰輔、福井淳太
	開水路流れに設置された橋脚周辺の水利特性について(3)	京都大学防災研究所年報、第28号B-2, pp. 523~537	大年邦雄
	住民の水防意識および水害への対応についての実態調査	河川、昭和60年7月号、pp. 69-78	
	LDV による開水路流れの速度ベクトル計測について	流れの計測と可視化大阪ジョイント講演会講演要旨集、pp.119-124	石垣泰輔、梶間厚邦
	開水路隅角部における流れの挙動について	流れの可視化大阪ジョイント講演会	石垣泰輔、梶間厚邦
	開水路流れにおける速度ベクトル計測について	第2 回流れの動的計測シンポジウム論文集、pp.136-	石垣泰輔、梶間厚邦
	水害時における住民の対応行動の分析	第4 回自然災害科学会学術講演会要旨集、pp.141-142	石垣泰輔、大年邦雄
1986	開水路流れにおける縦渦の3次元構造について	第30回水理講演会文集、pp. 565~570	石垣泰輔
	開水路流れに設置された橋脚周辺の水利特性について(4)	京都大学防災研究所年報、第29号B-2, pp. 487~503	大年邦雄
	LDV による開水路流れの速度ベクトル計測について(2)	京都大学防災研究所年報、第29号B-2, pp. 627~645	石垣泰輔、梶間厚邦
	Visualization of longitudinal eddies in an open channel flow	Proc.4th International Symposium on Flow Visualization, 4., pp. 333-337	Taisuke Isigaki
	The three dimensional structure of turbulent shear flow in an open channel	Proc.5th Congress of APD-IAHR, Vol.	Taisuke Isigaki
1986	Modelling of Local Scour around a circular pier	IAHR Symposium on Scale Effects in Modelling Sediment Transport Phenomena, pp.180-193	Kunio Ohtoshi
	昭和58年7月山陰豪雨災害における住民の対応状況について	自然災害科学、第5巻1号、pp.9-19	石垣泰輔、大年邦雄
1987	開水路流れの側壁近傍における3次元特性について	第31回水理講演会論文集、pp.431-436	石垣泰輔、梶間厚邦
	Three dimensional Structure of Turbulence in an Open Channel Flow Near the Corner	Proc. of 22nd Congress IAHR, Vol.B, pp.162-163	Taisuke Isigaki
	Local Scoun around a Non-Uniform Pier	Proc. of 22nd Congress IAHR, Vol.B, pp.304-309	Kunio Ohtoshi

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1987	LDV による開水路流れのベクトル計測について(3)	京都大学防災研究所年報、第30号B-2, pp. 643-654	石垣泰輔、梶間厚邦
	開水路流れに設置された橋脚周辺の水理特性について(5)	京都大学防災研究所年報、第30号B-2, pp. 627-642	大年邦雄
	水害時における住民の対応行動とその分析	(社)大阪府測量設計業協会「水防に関する講演会」pp. 43-61	
1988	大阪湾における潮流の流動特性に関する模型実験	京都大学防災研究所年報、第31号B-2, pp. 793-806	大年邦雄、木戸研太郎
	LDV による開水路流れの速度ベクトル計測について(4)	京都大学防災研究所年報、第31号B-2, pp. 815-823	石垣泰輔
	Hydraulic Model Experiment on the Tidal Current in Osaka Bay	Proc of 6th Congress APD-IAHR, .Vol.4.,	Kunio Ohtoshi
	Measurement of Secondary Flow in an Open Channel	Proc of 6th Cngress APD IAHR Vol.2.-2, pp.513-	Taisuke Ishigaki
	Mean and Turbulence Structure near the Inclined Side-wall in an OpenChannel Flow	Third International Symposium on Refined Flow Modeling and Turbulence Measurements IAHR , pp. 545-552	Taisuke Ishigaki
1989	Study Report on Disasters Caused by the 1988 Heavy Rainfall in the State of Rio de	Research Report on Natural Disasters, No.	Toshie Nishizawa, Koichi Suzuki
	台形断面開水路流れの3次元構造に関する実験的研究	第33回水理講演会論文集、pp. 517-522	石垣泰輔
	昭63-7島根・広島水害における住民の警戒・避難行動に関する調査	文部省科学研究費突発災害調査研究成果「自然災害」総合研究班, No. B-63-2, pp. 136-149	石垣泰輔、大年邦雄
1989	1988年リオ・デ・ジャネイロ州における集中豪雨災害	京都大学防災研究所年報、第32号 A, pp. 43-70	石垣泰輔、大年邦雄
	台形断面開水路流れの水理特性について	京都大学防災研究所年報、第32号 B-2, pp. 935-949	石垣泰輔、西田 雅
	往復流による橋脚周辺の局所洗掘に関する研究	京都大学防災研究所年報、第32号 B-2, pp. 951-961	大年邦雄、国西達也
	Secondary Flow in Compound Open Channel	Hydrocomp' 89, pp. 234-	Taisuke Ishigaki
	Turbulence, Secondary Flow and Boundary Shear Stress in Trapezoidal Open Channel	Proc of 23rd congress of IAHR, pp. A-23-30	Taisuke Ishigaki
	Visualization of Velocity Distribution by Stereo Photography	5th ISFV, pp. 47-52	Taisuke Ishigaki
	水害時の災害情報と避難行動に関する研究	科学研究費(63601014)研究成果報告書, pp. 47-62	石垣泰輔、大年邦雄

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1989	水害時における住民の対応行動について	土木学会中国四国支部平成元年度第1回講習会テキスト, pp.75-86	石垣泰輔、大年邦雄
1990	複断面開水路流れの斜昇流に関する実験的研究	水工学論文集、第34巻、pp.403-408	石垣泰輔
	複断面開水路流れの水理特性について(4)	京都大学防災研究所年報、第33号B-2, pp.559-569	石垣泰輔
	Flow visualization in a cross section of an open channel flow	Engineering Turbulence Modelling and Experiments, pp.335-343	Taisuke Ishigaki
	Visualization of secondary flow in a compound open channel	Proc. of 7th Congress of APD-IAHR, Vol.111, pp.485-490	Taisuke Ishigaki
1991	One-dimensional analysis of tidal exchange in a well-mixed estuary	Proc. of 7th Congress of APD-IAHR, Vol.111, pp.407-412	Kunio Ohtoshi
	複断面開水路流れの水理特性について(5)	京都大学防災研究所年報、第34号B-2, pp.387~399	石垣泰輔、武藤裕則
	閉鎖性海域の海水交換に関する研究	京都大学防災研究所年報、第34号B-2, pp.401~419	大年邦雄
	Experimental study on the turbulent mixing in a compound open channel	Proc of 24th congress of IAHR Congress, pp.C-606-619	Taisuke Ishigaki
	Hydraulic model investigation on the dispersion of river water flowing into Osaka bay	Proc of 24th congress of IAHR Congress, pp.B-343-350	Kunio Ohtoshi
1992	Questionnaire research on the behavior of inhabitants during a flood disaster	Natural Disaster Reduction and Civil Engineering, JSCE,	T. Ishigaki and K. Ohtoshi
	複断面開水路流れにおける低水路流れと高水敷流れの混合機構に関する実験的研究	水工学論文集、第36巻、pp.139-144	石垣泰輔、武藤裕則
	複断面開水路流れの水理特性について(6)	京都大学防災研究所年報、第35号B-2, pp.349~364	石垣泰輔、塩野耕二
	大阪湾の潮流と海水交換に関する研究	京都大学防災研究所年報、第35号B-2, pp.331~348	大年邦雄
	Flow visualization in a transverse cross section of an open channel flow	Experimental Thermal and Fluid Science, Vol. 5, No. 3, pp.268-273	Taisuke Ishigaki
	閉鎖性湾域の海水交換に関する実験的研究	海洋開発論文集、第8巻、pp.397-402	大年邦雄、井上慶司
	Velocity distribution in a compound open channel	Proc. 8th APD-IAHR, Vol.2, B, pp.331-342	Taisuke Ishigaki

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1993	水害時の避難・警報システム	科学研究費研究成果報告書、災害時の避難・予警報システムの向上に関する研究	石垣泰輔
	直線開水路流れの2次流について	京都大学防災研究所年報、第36号B-2, pp. 573~581	石垣泰輔、塩野耕二
	大阪湾の潮流に関する水理模型実験	京都大学防災研究所年報、第36号B-2, pp. 519~533	石垣泰輔、野井潤生、馬場康之
	Secondary Flow in a Straight Open Channel	Proc. of XXV Congress of IAHR, A-1, pp.73-80	T. Ishigaki and K. Shiono
1994	大阪湾の潮流に関する水理模型実験(2)	京都大学防災研究所年報、第37号B-2, pp. 501-510	石垣泰輔、馬場康之
	全国市町村の防災活動と住民の防災意識について	京都大学防災研究所年報、第37号B-2, pp. 529-537	石垣泰輔、武藤裕則、馬場康之
	Hydraulic model test of tidal current and river discharge into Osaka bay	Proc. 9th APD-IAHR, Vol.1, pp.510-517	T. Ishigaki and Y. Baba
1995	開水路側壁近傍の壁面せん断応力と流れの3次元構造について	水工論文集、第39巻、pp.761-766	石垣泰輔・塩野耕二
	複断面蛇行開水路流れの水理特性について(1)	京都大学防災研究所年報、第38号B-2, pp. 525-544	武藤裕則・塩野耕二・石垣泰輔
	久美浜湾における潮流の流動特性に関する研究(1)	京都大学防災研究所年報、第38号B-2, pp. 539-550	石垣泰輔・馬場康之・秋山真吾
1996	複断面蛇行開水路流れの3次元構造について	水工学論文集、第40巻、pp.711-716	武藤裕則・塩野耕二・石垣泰輔
	Secondary Flow and Side-Wall Turbulence in Open Channel Flow	Proc. 10th APD-IAHR, Vol.2, pp.141-147	T. Ishigaki Y. Muto
	3-Dimensional Flow Structure in Compound Meandering Channels	Proc. 10th APD-IAHR, Vol.2, pp.274-281	Y. Muto, K. Shiono, T. Ishigaki
1996	複断面蛇行開水路流れの水理特性について(2)	京都大学防災研究所年報、第39号B-2, pp. 543-558	武藤裕則・石垣泰輔・塩野耕二
	大阪湾の潮流に関する水理模型実験(3)	京都大学防災研究所年報第39号B-2 pp.519-525	馬場康之
	Physical and Numerical Simulations and Field Observations for the flow in Kumihama	Proc. 10th APD-IAHR, Vol.2, pp.516-523	T. Ishigaki, Y. Baba, S. Akiyama, Y.
1997	Fluid Mixing and Boundary Shear Stress in Compound Meandering Channel	Proc. of Theme A, 27th IAHR, pp.763-768	T. Ishigaki, Y. Muto, N. Takeo
	複断面蛇行開水路流れの水理特性について(3)	京都大学防災研究所年報、第40号B-2, pp. 371-384	武藤裕則・石垣泰輔
	大阪湾の潮流に関する水理模型実験(4)	京都大学防災研究所年報第40号B-2 pp.433-443	馬場康之

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1998	Three-Dimensional Flow Structure for Overbank Flow in Meandering Channels	J. Hydroscience and Hydraulic Engineering, Vol.16, No.1, pp.97-108	Y. Muto, K. Shiono, T. Ishigaki
	Stage-Discharge prediction for overbank flow in meandering channels	Advances in Hydro-Science and - Engineering, Volume	Y. Muto, T. Ishigaki
	Secondary flow in a Meandering Channel for Overbank	Proc. 11th APD-IAHR, pp.459-468	Y. Muto, T. Ishigaki
	Secondary flow and turbulence in a compound meandering channel	Annuals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ. No.41B-2, pp.325-331	Y. Muto, T. Ishigaki
	湾域の閉鎖度に関する考察	京都大学防災研究所年報, 第41号 B-2, 333-339	馬場康之
1999	1998年8月豪雨による那珂川の水害について	河川災害に関するシンポジウム, pp.1-10	宝 馨・林 泰一・中川 一・戸田圭一・中北英 一・武藤裕則・市川 温
	Bed shear stress in meandering channels for overbank flows	Proc. Abstract of 28th IAHR Cong. (Paper on CD-ROM), pp.262	K. Shiono, T. Ishigaki, Y. Muto
	波崎海洋研究施設における海浜流のADCP計測 - 鹿島灘での海象の共同観測 -	京大防災研年報, 第42号 B-2, 421-430	馬場康之・吉岡 洋・山下隆男
	砕波帯近傍における平均流の発生要因の分離	海岸工学論文集, 第46巻, pp.196-200	馬場康之・山下隆男・吉岡 洋
2000	Turbulence Characteristics of a shear flow in an embayment attached to a straight open channel	Advances in Hydro-Science and - Engineering, Volume IV,	Y. Muto, T. Ishigaki
	Velocity measurements in a straight open channel with a rectangular embayment	Proc. 12th APD-IAHR	Y. Muto, T. Ishigaki
	Velocity Measurements in a Rectangular Embayment Attached to a Straight Open Channel	Annuals of Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., No.43B-2,	Y. Muto, T. Ishigaki
	冬季日本海の広域海浜流特性について -1999年上越・大潟海岸での合同観測結果より-	京都大学防災研究所年報, 第43号 B-2, pp.433-442	馬場康之・山下隆男・加藤 茂・内山 清
	浅海域における風域場と吹送流場の時間応答特性について -波崎海岸における共同現地観測結果	海岸工学論文集, 第47巻, pp.446-450	馬場康之・山下隆男・加藤 茂

著 書

発表年	著書名	出版社	共著者
1970	土木計測便覧	丸善	京都大学土木会編
1972	水工水理学	丸善	石原藤次郎編著
1982	水理学の基礎（新体系土木工学21）	技報堂出版	板倉忠興、高木不折
1988	地域防災データ総覧（災害情報編）	財団法人 消防科学総合センター	（共同執筆）
1994	地域防災データ総覧（災害アンケート編）	財団法人 消防科学総合センター	（共同執筆）
1995	地域防災データ総覧（広報案文編）	財団法人 消防科学総合センター	（共同執筆）
2001	防災学ハンドブック	朝倉書店	京都大学防災研究所編

今本博健教授の功績

今本博健教授は、昭和36年京都大学工学部土木工学科を卒業後、同年4月に京都大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻に進学し、同課程を修了後、昭和38年4月に同博士課程に進み、昭和40年3月に退学した。同年4月京都大学工学部講師に採用された後、昭和41年4月に同助教授に昇任、昭和44年3月には京都大学防災研究所附属宇治川水理実験所助教授に配置換となり、昭和50年4月同教授に昇任し、平成8年5月の防災研究所の改組後は同研究所附属災害観測実験センター教授に配置換となり、平成13年3月停年により退官された。

この間、今本教授は昭和50年5月より防災研究所改組までの20年余にわたり宇治川水理実験所長に併任し、同実験所の管理・運営にあたるとともに、同所での実験水理学研究を強力に推進した。研究所改組後は災害観測実験センター長に併任し、同センターの管理・運営に従事した。また、平成9年5月から2年にわたり防災研究所長に併任した。

なお、昭和50年11月から3月間タイ国のアジア工科大学の客員教授に招聘され、同大学での教育・研究指導に従事した。

研究面においては、主として実験的手法により各種の流れの水理特性の解明に努めてきたが、特に開水路流れの乱流構造については、本格的な乱流計測により、水面の影響により境界層気流の構造とは異なることを明らかにするとともに、各種の乱れ特性量の水深方向の分布式を摩擦速度および水深と関連づけて表わすなどの成果を挙げた。これらの成果は国際水理学会アジア太平洋会議での論文賞を受賞するなど国際的にも高く評価された。

水理模型実験についても、多くの水理現象では流体と固体壁面間の摩擦抵抗が支配的なため、幾何学的な水平縮尺と鉛直縮尺ならびに運動学的な粗度縮尺の3量間の相似則を成立させることが重要であるとの理論的考察に基づいた多くの水理模型実験を行い、実験結果が現地現象と良好な相似性が成立することを検証観測で明らかにした。

また、水害については、国内外における多くの現地調査を実施し、人的被害を防止・軽減するには早期避難の実行が有効であることを早くから強調し、自治体レベルでの防災計画の検討や住民の防災意識の向上に協力してきた。都市化に伴う水害危険についても水害シミュレーションなどにより一般社会に警告してきた。

一方、教育面においては、工学部地球系学科や大学院工学研究科の授業を担当するとともに、研究室でも多くの学生の研究指導を行い、社会で活躍しうる高度な研究者や技術者の育成に努めてきた。また、海外からの研究者を積極的に受け入れ、それぞれの研究活動を支援するとともに、海外での講演や講義を通じて国際的な貢献をしてきた。

この他、日本土木学会、自然災害学会、流れの可視化学会、国際水理学会など多くの学会での諸活動に積極的に参加するとともに、建設省や運輸省のほか、大阪府、京都府、滋賀県、大阪市、神戸市など多くの自治体や各種法人の技術委員会にも委員等として参画し、社会的にも多大な貢献をしてきた。

以上のように、今本博健教授は学術研究並びに教育の各分野において多くの業績を挙げ、学術研究の発展と工学・防災技術の進歩及び国際交流に多大の貢献をしてきており、その果たした功績は誠に顕著なものである。